歴史散歩・遠友夜学校の時代② — 中島公園とその界隈編 —

☆ 遠友夜学校時代を追体験しながら、街の成り立ちを探り、札幌の今と未来を考える

☆ 主催：一般社団法人 新渡戸遠友リビングラボ ☆日時：9月6日(土)午前10～12時 雨天時9月13日(土)に順延

☆ 集合時刻・場所：午前9時50分・地下鉄中島公園駅 1番出口地上

☆ 案内人：札幌建築鑑賞会 代表 杉浦正人氏 費用：700円(資料・傷害保険料含)

☆ 問合せ・申し込み：本会事務局(三上)まで、電話：011-577-1441 FAX:011-241-1150

E-メール：info@nitobe-enyu.org

申込み締切り：8月30日(土)

順番	場所	見どころ なぜ? なに? ポイント
集合・出発	地下鉄中島公園駅	1番出口 地上
↓	(200m)	
見どころ①	南8条西4丁目 鴨々川・藻山橋	明治時代は札幌本府の南辺で、果樹園が広がっていた。「道路の左側は林檎園になっていて、大方葉の散り尽した林檎の木立が、高麗垣の上に着うざりするほど枝先を空に向けて立ち連なっていた」(有島武郎『星座』の一節)。
↓	(250m)	
見どころ②	南8条西5丁目 マルゲンビル	札幌軟石の蔵と軟石を貼った新しい事務所ビル。ビルの軟石も、石蔵の解体材を再利用したもの。その石蔵はどのようななりわいに用いられたか? なぜ、そのなりわいがここに立地したか。
↓	(250m)	
見どころ③	水天宮	明治期に祀られた水にゆかりのある神社。なぜ、ここに祀られているのだろうか。境内で、どんな歴史が読み取れるか。
↓	(200m)	
見どころ④	中島公園・菖蒲池	明治時代後期、長岡安平の設計によって公園として整備された。どんな設計思想が読み取れるだろうか。その遺産はこんにち、どのように生かされているか。
↓	(100m)	(トイレ休憩)
見どころ⑤	札幌パークホテル	中島公園・菖蒲池(=中景)、藻岩山(=遠景)を借景として取り込んだ庭園(明道博北大農学部教授による)。ホテルは札幌における近代建築の傑作。現在、大規模国際会議施設建設のための再開発が構想されている。
↓	(400m)	
見どころ⑥	中島公園・岡田山	新渡戸稲造が1909(明治42)年に札幌に来たとき、ここで農科大学の人びとによって園遊会が催された。なぜ、ここで催されたのだろうか。そもそも、ここに“山”が築かれたのだろうか。
↓	(200m)	
見どころ⑦	南12条西6丁目 割烹鴨川跡	昭和初期、割烹料亭が設けられたところ。その記憶はこんにち、どのように生かされているだろうか。
↓	(300m)	
見どころ⑧	南13条西5丁目 中根邸跡	昭和戦前期から戦後にかけて、札幌で芸術家を支えた中根光一の邸宅があったところ。多くの画家がこの場所で交流した。邸宅の名残はこんにち、どのように生かされているだろうか。
↓	(100m)	
見どころ⑨	行啓通	中島遊園地(のちに中島公園)の成り立ちが伝わる微地形。どのように感じ取ることができるだろうか。
↓	(350m)	
終点・解散	地下鉄幌平橋駅	1番出口

全行程：約2.4km・約2時間(各見どころでの滞留時間も含む)